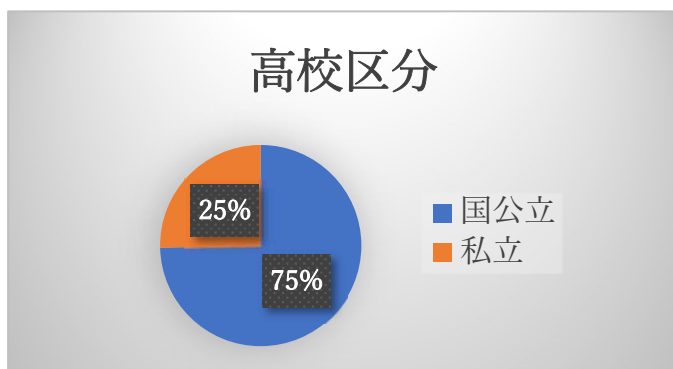
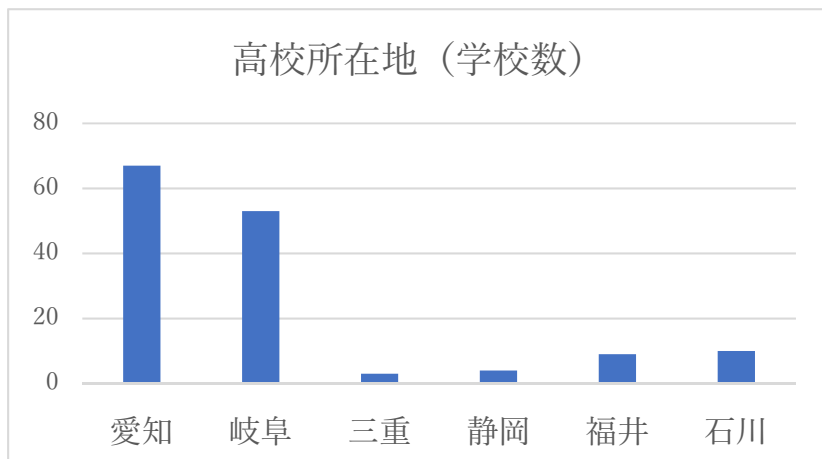


国立12大学 新テストに関するアンケートの結果まとめ（中間報告1）

7月31日15:00までの回答結果に基づく、中間まとめです。（計146校）

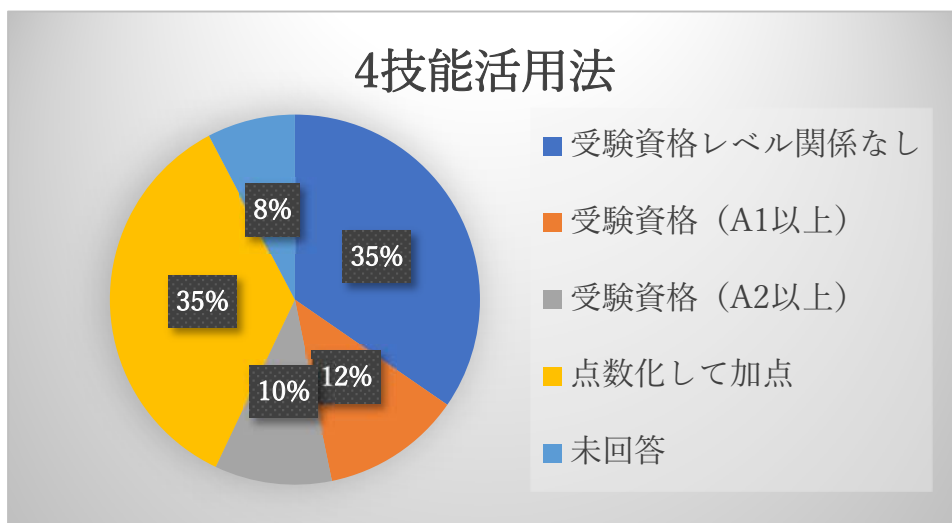
【質問1・2・3】 高校所在地および国公立・私立の割合

高校所在地は、高校数で示しています。 総数146校，愛知67校，岐阜53校



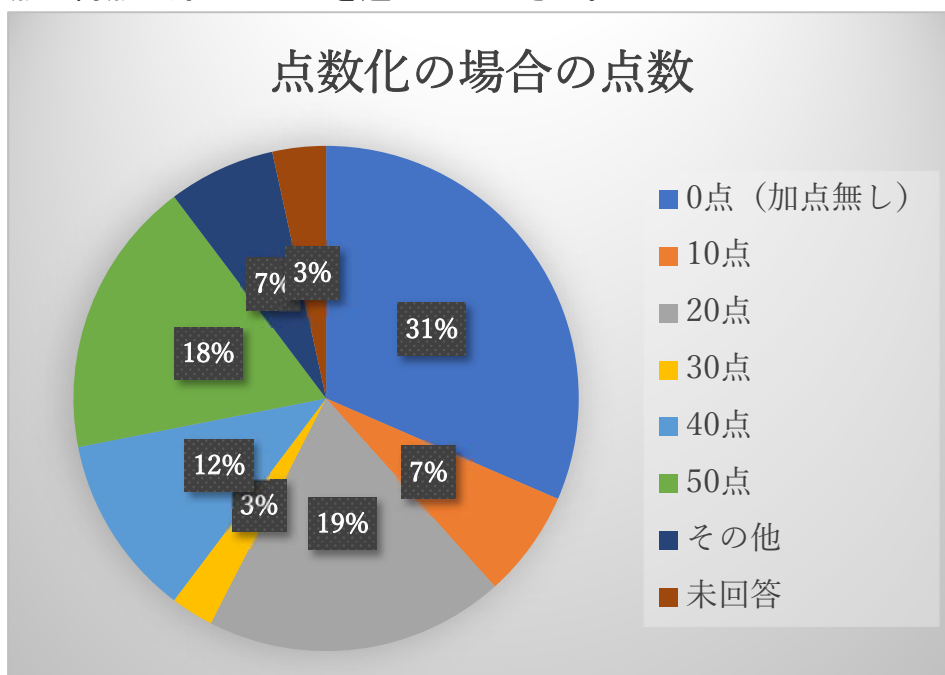
【質問5】 4技能試験の活用法で好ましいものを選んでください

1 受験資格（すべてあり） 2 受験資格（A1以上） 3 受験資格（A2以上） 4 点数化して加点



結果としては、東大が発表したレベル関係無しが多いが、点数化して加点というものも同じ割合である。受験資格として、レベルを指定する場合にはA1が多いものの、A2もそれなりの割合になっている。(アンケートの開始時には、東大の発表はなかったため、国大協がA1を足切り対象とする例も示していたため、影響を受けた可能性がある。)

【質問 6・7】 点数化について、旧センター試験英語の 200 点に加点する場合の 4 技能の加点は何点が好ましいかを選んでください。



その他に関しては、学部によって変えるなど自由裁量に任せるという意見が多かったが、高い点数を求める意見は特になかった。ただし、SWのみを切り出して加点すれば良いという意見が、数校ではあるが出ていた。加点無しについては、質問5の受験資格(レベル関係なし)を回答した高校が中心である。ただし、やむを得ず点数化するならばということで、0点以外を選んだ高校(4%分)もある。点数化としては、10から20点という低めの点数を望む高校と、40から50点の国大協の提示した20%のラインに大体合わせる(か、少し高めにしている)高校に分かれている。

【質問 8】 加点をする場合、各レベルの配点について、どのような配点が好ましいかをご記入ください。例えば、どのレベルでも同じ点を加点する、一つレベルが上がるごとに一定の点数を積み増して加点する、A2~B2 までと C1, C2 では異なる点数を加点する、等の方法が考えられます。

自由記述のため、実に様々な意見が出ていたが、大まかに区分して整理した。

- 1 1つレベルが上がるごとに一定の点数を加算していく 62校
- 2 もう少し粗い区分でレベル分けして、点数を加算していく 14校
- 3 一定の加点(全員に同じ加点をする) 8校
- 4 加点しない 5校

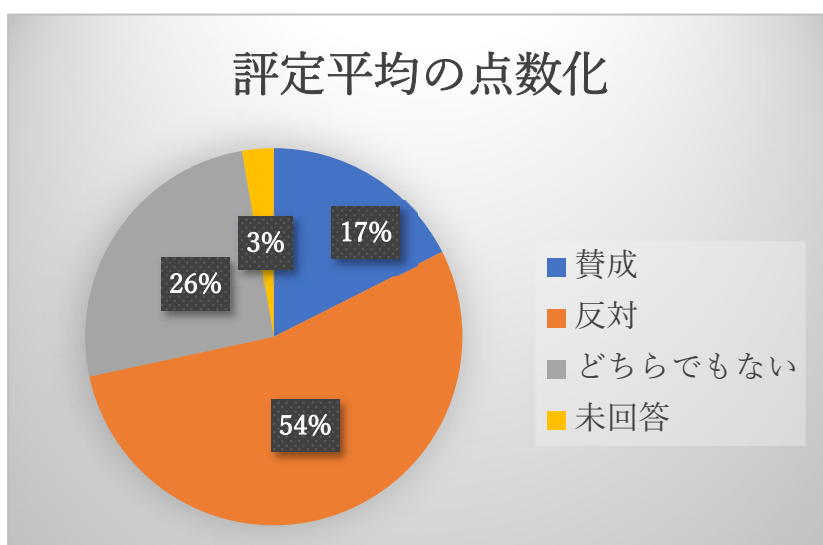
加点する場合という条件に反対している高校が多いため、回答数が減ってしまったが・・・一定の加点（同じ点数の加点）や0点の加点というのは質問6の「加点に反対」と一致している。結果としては、単純にレベルが上がるごとに一定の点数を加算して欲しいと言う高校が半数以上になっている。特に質問6で40点や50点を回答している高校の大部分がこのタイプであった。質問6で10点や20点を回答している高校では、1の一定の加点にしても、加点幅を小さくして影響があまり出ないようにして欲しいという回答が少なからずあった。その意味で、2のもう少し粗い区分で影響を少なくするという選択をした高校が多かった。数校であったが、この質問に対してCEFRの信頼度がないからと言う回答も見られた。この点については、次の質問での意見を参考にして欲しい。

【質問9】 「4技能試験の採用について、他にご意見がありましたら、自由にご記入ください。」

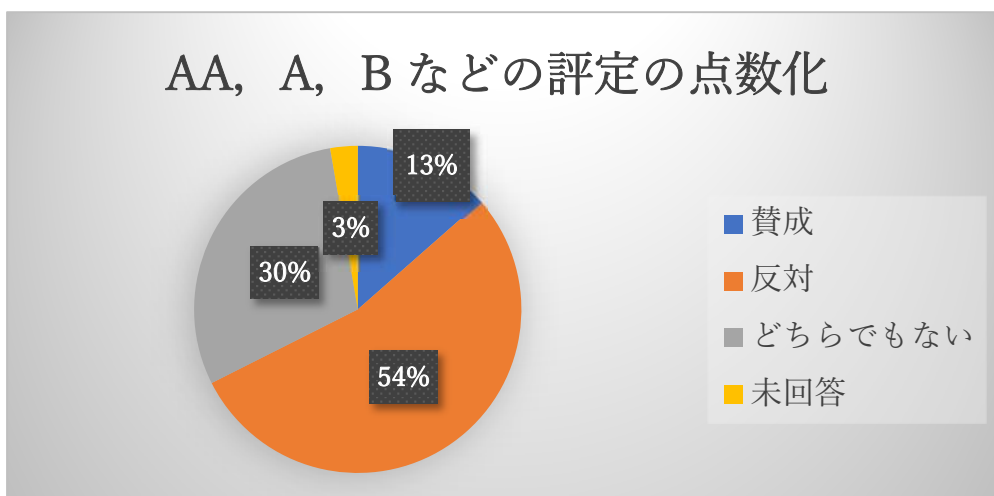
そもそもCEFR（民間試験と捉えている高校も沢山ある）の段階評価・・・が信用できるのかわからない。2つの側面があり・・・CEFRの段階評価そのものに意味が無いという意見（英語の専門家の間では、CEFRは英語の能力を測る基準ではないという意見があるので、それに基づいたものだと思われる）と、民間試験で様々な試験が存在しており、その間でのレベルの統一が出来ていない（東大が指摘している点と同じ内容と思われる）のに、それを入試に使うって良いのか・・・という意見が結構あった。このアンケートとしては、どちらが正しいという判断はせずに、単純に2つを（かなり無理して）分割して整理した。意見としては、同じことを考えたものだろうと思われるので、わけない方が良かったかもしれない。（公平性についてはと2の回答に加えた。各団体への批判や文句があったが・・・すべて2に入れた。）

- 1 CEFRの段階評価（4技能評価そのもの）の意味が不明（公平性の担保テスト編）32校
- 2 民間試験に任せること自体がおかしい（公平性の担保企業編） 5校
- 3 金銭的問題（および回数・試験会場の問題）19校
- 4 英語だけ何故評価基準とするのか 4校

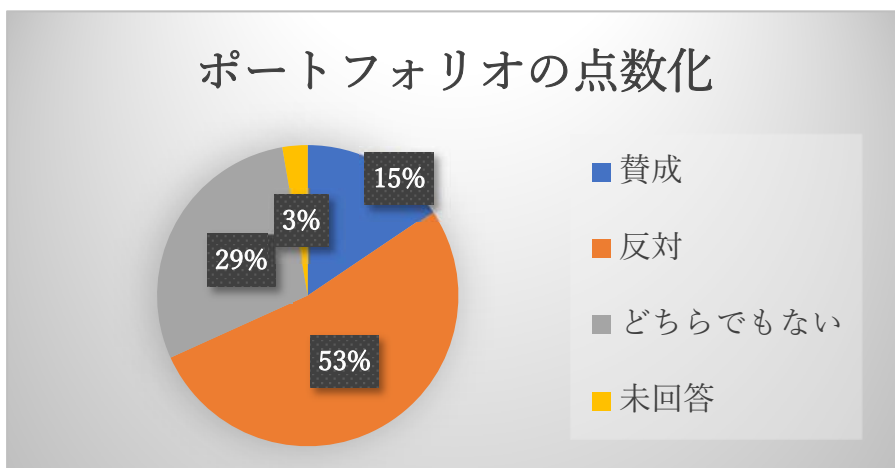
【質問10】 「調査書の点数化について、個別試験において評定平均を点数化して用いることの賛否をお答えください。」



【質問 11】 「調査書の点数化について、個別試験において評定（AA, A, B など）を点数化して用いるという考え方もあります。賛否をお答えください。」



【質問 12】 「学習の履歴（ポートフォリオ）を個別試験で点数化して用いることについて、好ましいものを選んでください。」



この 3 項目の回答から、基本的には点数化に反対だと言うことがわかる。賛成の割合が各々で異なる点
が、面白いかもしれないが、そこまで大きな差ではないと考えられる。

【質問 13】 「学習の履歴の利用について、推薦入試や AO 入試では佐賀大学が示しているように、利用す
るという方向性も出されています。逆に、0 または 1 以外の評価は不可能であるという意見も多くありま
す。何か、ご意見があれば、お願いいたします。」

0 または 1 以外の評価、の意味がわからないというコメントもあったが、記述のあるなし（あれば 1 で、
なければ 0）だけの判定は可能であるが、「ある」という場合に、いくつかのケースでどちらの方が高い
点数であり、何点くらいの差をつけることにより、優劣を決めることは不可能ではないかという意味で
用いている。 公平性について心配する記述が多く、推薦入試や AO 入試ならとにかく、個別試験での

利用は無理ではないかという意見が3割以上あった。(公平性は学校間格差と明記してあるものが多く見られたが、単純に公平性としか書いているものも同一に扱った。質問14の結果も参照のこと) 普段の活動の点数化は難しく、無理ではないのかという意見が十数校から出ていた。(公平性の部分と重なるものも数校含まれている。) 一方で、学習の振り返りや学習の成果を行うことは重要だという記述もあり、教育の中に取り入れていくことへは肯定的に捉えている高校もそれなりにあることは確認された。ただし、入試にどう使うかに関しては、かなりバラバラな状況である。

【質問14】「調査書の活用方法について、このようなものが欲しいというご希望があれば、自由にご記入ください。」

基本的には質問13での答えと重複するものが多かった。基本的には、学校間格差などから出てくる公平性の担保が無理ではないか、という意見が3割程度見られた。(こちらの質問では学校間格差と明記してある高校が質問13よりも増えていた。質問13で単純に公平性と言っている場合も14では学校間格差と書いている高校が結構見られた。) それ以外で10校に満たない程度ではあったが、大学側で基準の透明性を担保することへの要求、大学側で基準を統一して欲しい、大学側の基準がはっきりしないといった指摘もあった。

【質問15】「2024年度入試からは、英語の試験そのものが共通テストでは廃止になるという話もあります。このことに関する、ご意見もいただければと思います。」

単純に共通試験の中に残すべき(残して欲しい)という意見が約30校であった。(ただし、この中には現行のセンター試験の英語の内容を見直すというものも含まれている。) 残すかどうかは明記していないが、外部試験に委託と言うことそのものに反対(本当に公平なのか、金銭的な負担が大きい、が理由)が約20校であった。外部テストでもかまわないという回答が15校であったが、あくまで公平性が担保できて、金銭的な負担増が解決するのであればという付帯条件がついているものが、その中の半数以上であった。

【質問16】「こういったことも考えて欲しいというご意見がありましたら、自由にお書きください。」

まことに申し訳ありませんが、ものすごく多様なご意見をいただいている、とりまとめは難しい状況です。次回の報告の時に、少しでも整理できたらと考えています。

【まとめとお願い】

今回の報告は、あくまで単純な集計の結果だけをまとめました。様々な傾向が現れていると思いますが、回答した高校の大部分が愛知県と岐阜県になっているという欠点があります。東海地区においても、こちらの手違いで静岡県の高校への案内の送付に失敗してしまいました。(現在、送付作業を行っております。誠に申し訳ありませんでした。) アンケートは、8月中は継続していきますので、より沢山の高校からご意見をいただければと思います。

平成30年8月8日

国立12大学 代表幹事 名古屋工業大学 高木 繁